令和6年度 宇都宮市立平石北小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

- (1) 基本目標 心身ともに健康で、自ら考え主体的に行動し、徳・知・体の調和のとれた人間性豊かでたくましく生きる児童を育成する。～ 心ゆたかで かしこく たくましく ～
- (2) 具体目標
- ・思いやりがあり協力し合える子（心ゆたかで）
 - ・進んで学び自ら考える子（かしこく）
 - ・心と体をきたえる子（たくましく）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

— 楽しく「学び」・勇気をもって「チャレンジし」・みんなで「支え合う」活気ある学校経営の推進 —

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 目指す学校の姿（本校の使命） 「活気あふれる地域の学校」
- ①夢や意欲がもてる学校
 - ②心豊かで思いやりのある児童が育つ学校
 - ③互いの個性やチャレンジを認め合える学校
 - ④保護者・地域から信頼され魅力のある学校
- (2) 目指す教職員像
- ① 人間性・社会性豊かで信頼され、人権感覚の鋭い、児童を第一に考える教職員
 - ② 自己のキャリアを高め、自らの資質・能力の向上を図ろうとする意識の高い教職員
 - ③ 学校組織の一員としていたわり合い、補い合い、励まし合い、協働し支え合う教職員
 - ④ PDCA サイクルにより業務改善を図り、学校の組織力を高められる教職員
- (3) 「平北プロジェクト」（本校教育の重点）の策定と全教職員による実践推進
- プロジェクト1「さわやか生活プロジェクト」（心ゆたかで）：いじめのない温かな人間関係の構築
 - プロジェクト2「いきいき勉強プロジェクト」（かしこく）：学校課題の推進
 - プロジェクト3「すくすく体プロジェクト」（たくましく）：健康な体作りと食育
 - プロジェクト4「人や自然との触れ合いプロジェクト」（特色ある学校づくり）：地域との連携

[鬼怒地域学校園教育ビジョン]自分でよく考え 未来に向かって たくましく生きる子供の育成

4 教育課程編成の方針

社会に開かれた教育編成のため、カリキュラムマネジメントの視点から、一貫性、相互関連性のある教育課程・各種年間指導計画を作成し、教育活動を展開する。

- ① 各教科の教育内容を相互関係でとらえ、教育横断的な視点で内容を組織的に配列する。
- ② 子供たちの姿や地域の現状に基づき、教育課程をPDCAサイクルで実施改善する。
- ③ 小規模校の特性を生かし、教育内容と地域等の外部も含めた人的・物的な資源を効果的に組み合わせる。（体験活動・出前授業・各種ボランティア・平北ファーム・幼小交流活動 等）

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【 学 校 運 営 】

- ・学校マネジメントシステムを生かした活気あふれる地域の学校づくりの推進
- ・育てたい児童の姿を明確にした教育活動の充実
- ・勤務の効率化を意識した働き方の推進
- ・教職員一人一人のキャリアアップと高い同僚性を十分に生かした組織力の向上

【 学 習 指 導 】

- ・自分の考えをもち、ともに学び合う児童の育成 ～対話的活動を効果的に取り入れた授業づくりを通して～

【 児 童 生 徒 指 導 】

- ・互いを認め合い、励まし合う指導を通じた、自己肯定感・自己有用感の育成
- ・規範意識を高め、多様性を認めて支え合い、安心して過ごせる学級集団の形成

【健康（体力・保健・食・安全）】

- ・自ら進んで安全な生活を送り、心と身体の健康づくりに取り組む児童の育成

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には, A拡充 B継続 C縮小・廃止, を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は, 文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1-(1) 確かな学力を育む教育の推進	<p>A1 児童は, 他者と協力したり, 必要な情報を集めたりして考えるなど, 主体的に学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童, 教職員, 保護者対象 肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の気付きや考えを伝え合うグループ活動や多様な学習形態を工夫する。 児童の思いや考えをゆさぶる効果的な発問の工夫と教師によるコーディネートを通して課題解決に主体的に取り組めるようにする。 	B	<p>【達成状況】 児童 88.0 教職員 88.2 保護者 87.2 ・全て目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・ねらいや学習内容, 子どもの実態などに応じてペア学習やグループ学習を取り入れ, 学び合いの充実を図る。 ・目指す子どもの姿を想定して中心発問を設定する。子どもの考えを広げ深められるよう, コーディネートしていく。</p>
1-(2) 豊かな心を育む教育の推進	<p>A2 児童は, 思いやりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童, 教職員, 保護者対象 肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 道徳や学級活動の授業を中心に, 学校生活全般を通して, 「親切」や「思いやり」について話し合う活動を多く取り入れることで, 思いやりの気持ちを醸成する。 なかよし班活動などの異学年交流活動を通して, 互いを思いやる気持ちを育てるようにする。 	B	<p>【達成状況】 児童 82.9 教職員 76.5 保護者 91.4 ・保護者が目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・道徳や学級活動の授業を通して, 親切や思いやり, 言葉遣いについて話し合う活動を取り入れていく。 ・なかよし班活動などの異学年交流活動を通して, 互いを思いやる気持ちを育てるとともに, 時と場に応じた言葉遣いができるようにする。</p>
1-(2) 豊かな心を育む教育の推進	<p>A3 児童は, 目標に向かってあきらめずに, 粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童, 教職員, 保護者対象 肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> プールや持久走, なわとびの学習において, 検定カード等の活用を図り, 達成感を味わう機会を作る。 平北レンジャーとレンジャーシールを活用し, 継続的に努力している児童を認め称賛することで, 目標に向けて粘り強く取り組めるようにする。また, その様子をHP等で紹介する。 各種検定カードや「キャリアパスポートの振り返りカード」をこまめに家庭に持ち帰り, 保護者へ児童の頑張りを称賛してもらうことで, 児童の達成感や自己肯定感を高める。 	B	<p>【達成状況】 児童 87.3 教職員 76.5 保護者 85.0 ・保護者が目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・児童会活動や委員会活動, 学校行事において継続的に努力している児童に対して, 平北レンジャーカードやシールを活用し, 多くの教師が児童の頑張りを認め称賛できるようにする。 ・各種検定カードや「キャリアパスポートの振り返りカード」を通して, 保護者からも児童の頑張りを称賛してもらうようことで, 家庭においても, 児童の達成感や自己肯定感を高められるようにする。</p>

<p>1- (3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進</p>	<p>A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 ⇒児童、教職員、保護者、地域住民対象 肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が健康・安全に気を付けながら生活できるよう、生活習慣アンケートを活用し健康に生活するよう意識付けを図る。 ・食育指導や保健教育、避難訓練の様子や取組を各種便りや HP で、保護者に発信・提供するなど、地域や家庭への啓発活動を継続する。 ・下校指導と登下校の様子の聞き取りを継続的に行い、児童が安全に登下校できるよう指導する。また、保護者と危険箇所の情報を共有し、協力して安全に登下校できるようにする。 	<p>【達成状況】 児童 89.2 教職員 70.6 保護者 89.9 地域住民 100 ・児童、保護者、地域住民が目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が健康・安全に気を付けて生活できるよう、生活チェック表による振り返りや保健委員会の活動を通して、健康に生活するよう意識付けを図る。 ・食育指導や保健教育、避難訓練の様子や取組を各種便りや HP で、保護者に発信・提供することで、地域や家庭への啓発活動を継続する。 ・一斉下校指導の際に登校と下校の様子について聞き取りを継続的に行うことで、児童が安全に登下校できるよう指導する。また、保護者や地域住民から危険箇所の情報を収集するとともに共有することで、学校・家庭・地域が協力して安全に登下校できるようにする。 ・放課後の過ごし方や交通安全について、交通安全週間等の機会を活用し、各学級で指導する。
<p>1- (4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進</p>	<p>A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 ⇒児童、教職員対象 肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスポートや行事等の振り返りカード、各種検定などを振り返る機会を設け、自分のよさや成長を感じられるよう指導の工夫をする。 ・児童の自己肯定感を高めるために、学級の活動や児童会活動等において主体的に取り組んでいる姿や協力している様子を見取り、認め、励ますとともに児童同士が認め合う場を設ける。 ・さくら連絡網やHPを活用し、児童の活動の様子や活躍している姿を積極的に発信する。 	<p>【達成状況】 児童 88.0 教職員 94.1 ・全て目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各行事等や各種検定やめあてに対する振り返りをフィードバックする機会を設け、自分のよさや成長を感じられるよう指導の工夫をする。 ・学級の活動や児童会活動等において主体的に取り組んでいる様子や協力している姿を見取り、教師が認め、励ますとともに児童同士が認め合う場を設け、児童の自己肯定感を高められるようにする。 ・さくら連絡網や HP、学校だより等を活用し、児童の活動の様子や活躍している姿を積極的に発信する。
<p>2- (1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進</p>	<p>A 6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 ⇒児童、教職員対象 肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に英語で教師やALTと児童が話したり、聞いたりする場面を多くもつなど、さらに英語に慣れ親しめるようにする。 ・ALTの英語コーナーを設定し、挨拶や季節の行事などをテーマとした話や、英語での本の読み聞かせなどをする。 	<p>【達成状況】 児童 74.1 教職員 94.1 ・教職員が目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ALTと連携を図りながら、授業展開や教材を工夫するとともに、英語でのコミュニケーション活動をさらに取り入れていくことで、児童が英語に慣れ親しめるようにする。 ・ALT による読み聞かせ等の機会を活用し、授業時間以外に ALT と直接コミュニケーションを取る機会を設け、児童の英語への関心を高めていくようにする。

	<p>A7 児童は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童、教職員、保護者対象 肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・宇都宮学を中心に、生活科や社会、総合的な学習の時間を通して、平石地区や宇都宮市を教材とした学習を展開し、地域や宇都宮の良さを実感できるようにする。また、HPや各種たよりに学習活動等を掲載するなど情報を発信し、保護者に広く周知する。 ・掲示コーナーの設置やお昼の放送での民話の紹介、学習のための資料の蓄積などを通して、「宇都宮学」の充実を図る。 ・給食の「宮っこランチ」の日に合わせて宇都宮の歌を聞き、郷土愛を深める。 	<p>【達成状況】 児童 79.7 教職員 76.5 保護者 71.4 ・全て目標値を下回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平石地区や宇都宮市についての学習の際、出前授業や校外学習などの創意工夫をした特色ある授業を実践していく。 ・宇都宮に関する民話を校内放送したり、学習資料を掲示したりすることで、児童の宇都宮に対する関心を高める。 ・HP等を活用し、「宇都宮学」など児童の宇都宮への関心を高めるための取組を保護者に周知する。 ・給食の「宮っこランチ」の日に合わせて宇都宮の歌を校内放送で流すことで、郷土愛を深められるようにする。
<p>2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進</p>	<p>A8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童、教職員、保護者対象 肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容に応じて、図書や1人1台端末を使った学習を授業で取り入れ、個に応じたきめ細やかな指導を心掛ける。 ・授業において、図書資料を効果的に活用するために、学校図書館司書と連携を図り、学習内容に応じた図書資料を準備する。 	<p>【達成状況】 児童 86.1 教職員 100 保護者 86.6 ・教職員が目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいを達成するため、1人1台端末等の ICT 機器を効果的に活用する。 ・図書館司書と連携しながら、図書を活用した指導の充実を図る。 ・HP等を活用し、ICT機器や図書を児童が活用している様子を保護者に周知する。
<p>2- (3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進</p>	<p>A9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童、教職員対象 肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科の植物の栽培や総合的な学習の時間における環境問題に関する学習を通して、SDGsに関する知識を高めるとともに、実践力を養っていく。 ・「持続可能な社会」についての関心が高まるよう、リサイクルの推進や緑化運動を実施し、それらの活動を全児童や保護者に紹介する。 	<p>【達成状況】 児童 82.9 教職員 70.6 ・全て目標値を下回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活科の植物の栽培や総合的な学習の時間における環境問題に関する学習を通して、SDGsに関する知識を高めるとともに、実践力を養っていく。 ・「持続可能な社会」についての関心が高まるよう、委員会活動において、リサイクルの推進や緑化運動を実施したり、それらの活動をステッカーやシールなどで全児童に紹介したりする。
<p>3- (1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進</p>	<p>A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 ⇒教職員対象 肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じ外部機関との連携を図ったり、特別支援学級担任の専門的な知見を教職員で共有したりして、特別な支援を必要とする児童への支援の方法について研修を行う。 ・児童の実態について、教職員の情報交換を密に行う機会を設ける。 	<p>【達成状況】 教職員 100 ・目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を必要とする児童の情報を全職員で共有し、個に応じた支援ができるような組織的体制を構築する。 ・必要に応じ外部機関との連携を図ったり、特別支援学級担任の専門的な知見を教職員で共有したりして、特別な支援を必要とする児童への支援の方法について研修を行う。

<p>3-(2) いじめ・不登校対策の 充実</p>	<p>A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童、教職員、保護者、地域住民対象 肯定的回答85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめゼロ強調月間に合わせていじめに関する道徳の授業を意図的に実施する。 ・いじめゼロに関してのアンケート・標語・名札の着用等を通じて意識の向上を図る。 ・児童会活動や平北レンジャーの呼び掛けを通して、いじめゼロ運動を計画的に啓発し、実施する。 ・各種たよりや学級懇談会、HP等で児童の取組を発信していく。 	<p>【達成状況】 児童 94.3 教職員 100 保護者 82.4 地域住民 92.3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童、教職員、地域住民が目標値を上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめゼロ強調月間に道徳の時間にいじめに関する内容の授業を実施する。 ・いじめアンケートの実施・標語・名札の着用等を通じて「いじめを許さない」という意識の向上を図る。 ・児童会の平北レンジャーを活用し、いじめゼロ運動を効果的に展開する。 ・各種たよりや学級懇談会、HP等ではじめに対する学校や児童の取組を積極的に発信していく。
	<p>A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童、教職員、保護者対象 肯定的回答90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童指導情報交換会やいじめ等対策委員会（不登校対策含）、ケース会議等で児童の様子についての共通理解を迅速に図り、対応策を検討していく。 ・SCM及び特別支援コーディネーターを中心に、様々な外部組織とつながった対応を継続して進めていく。 ・当番活動の取組、帰りの会における振り返りなどを中心に、児童の活躍の場や認め合う場を学校生活全般を通して、設けていく。 	<p>【達成状況】 児童 94.3 教職員 100 保護者 81.3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童、教職員が目標値を上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ等対策委員会（不登校対策含）やケース会議等で関係職員が児童の様子についての共通理解を図り、組織的な対応策を検討していく。 ・SCM及び特別支援コーディネーターをはじめ、関係機関等の様々な外部組織と連携した対応を進め、より多くの意見をもとに解決に向けて取り組むようにする。 ・必要に応じて、家庭訪問などで保護者と情報を共有しながら対応する。 ・学校生活における振り返りの場を持つことで、児童の活躍や頑張りを互いに認め合えるようにする。
	<p>A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童、教職員、保護者、地域住民対象 肯定的回答90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童会活動や平北レンジャー、委員会活動など、児童が中心になって活躍できる場を設定していく。 ・各種たよりや学級懇談会、HP等を活用し、クラスの様子や学校での活動の様子を発信していく。 ・月1回以上各クラスでの共遊の時間を設けるなど、ロング昼休みの使い方を工夫したり、なかよし班活動などの異学年交流を行ったりしていく。 	<p>【達成状況】 児童 91.1 教職員 100 保護者 85.1 地域住民 100</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童、教職員、地域住民が目標値を上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童会活動や学校行事など、児童が主体的に活動し、児童自身が活躍できる場を設定していく。 ・各種たよりやHP等を活用し、学校の活動の様子を発信するとともに、学級懇談会等において児童の様子を伝えることで家庭と情報を共有しながら支援していく。 ・定期的に共遊の時間やなかよし班活動などの機会をもつことで、仲間意識を高めたり、異学年の交流を深めたりする。

<p>4- (1) 教職員の資 質・能力の 向上</p>	<p>A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 ⇒児童、教職員、保護者対象 肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の学習意欲が向上し、学習のねらいが達成できるよう宇都宮モデル（「はっきり」、「じっくり」、「すっきり」）の各過程の指導の質的向上を図る。 ・めあて、まとめ、ふり返りを意識した授業を実践し、児童が学習に見通しをもって取り組むとともに、振り返りを行うことで、より確実に学習内容の定着が図れるようにする。 ・算数における習熟度別学習やITの実施、かがやきルームの活用など、個に応じた指導の充実を図ることで、基礎・基本の定着を図る。 ・学力調査等の結果や日頃の学習評価を基に、課題を設定し、学校全体で授業改善に取り組む。 	<p style="text-align: center;">B</p> <p>【達成状況】 児童 94.3 教職員 94.1 保護者 87.5 ・児童、教職員が目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業参観や学級懇談会等で児童の学びについて伝えていく。 ・めあてをはっきり示し、じっくり考え、すっきり解決する学習の流れで授業を展開することで、児童が学習に見通しをもって取り組めるようにする。 ・算数における習熟度別学習や少人数学習の実施、かがやきルームの活用などで基礎・基本の定着を図る。 ・学力調査等の結果を分析し、児童の実態から見えてきた課題と学校課題が関連するような研究を推進するなど、学校全体で取り組む。
<p>4- (2) チーム力の 向上</p>	<p>A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒教職員対象 肯定的回答 95%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・PDCA サイクルによる学校行事の精選や行事のスリム化、校務分掌の見直しを図る。 ・教職員の専門性を活かした指導・支援体制を整え、業務の効率化を図る。・管理職や先輩教職員だけでなく同僚間の学び合いなどができる環境を整えることで OJT の推進を図る。 ・学習資料のデータや現物の蓄積と引継ぎを確実にし、業務の効率化を図る。 	<p style="text-align: center;">B</p> <p>【達成状況】 教職員 94.1 ・目標値を下回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の多様な専門性を活かした指導・支援体制を整えていく。 ・職員の協働体制を整え、OJT の推進を図る。 ・学習資料のデータや現物の蓄積と引継ぎを確実にし、業務の効率化を図る。
<p>4- (3) 学校における 働き方改 革の推進</p>	<p>A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒教職員対象 肯定的回答 95%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の反省、教育課程の振り返りなどを通し、学校運営の見直しや行事の実施方法の改善を行う。 ・見通しをもって提出物、起案文書を作成するとともに、教職員間の連携を図った業務の推進を行うことで、勤務時間を意識した働き方を推進する。 	<p style="text-align: center;">A</p> <p>【達成状況】 教職員 82.4 ・目標値を下回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各行事の反省を累積して分析したり、教育課程の見直しをしたりすることで、学校運営や行事の実施方法の改善を図る。 ・見通しをもって計画的に職務を遂行することともに、教職員間の連携・協力を強化することで、業務の効率化を図る。 ・リフレッシュウィークを着実に実施するため、リフレッシュデーになっている職員名を職員室に掲示したり、打合せ等で呼びかけをしたりするなど、職員が勤務時間を意識して働けるよう工夫する。

<p>5- (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実</p>	<p>A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 ⇒児童、教職員、保護者、地域住民対象 肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域学校園での児童、生徒間の交流、各部・分科会における教職員の交流を図るとともに、活動内容を各種たよりやHP等で発信する。 ・あいさつ運動、乗り入れ授業、中学校訪問など交流活動における振り返りの充実を図る。 	<p>【達成状況】 児童 93.1 教職員 88.2 保護者 89.7 地域住民 83.3 ・全て目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・地域学校園での児童、生徒間の交流を図るとともに、親学講座など地域学校園の取組や活動内容を各種たよりやHP等で発信する。 ・運動会の中学生によるボランティアやあいさつ運動、乗り入れ授業、中学校訪問など交流活動の充実を図る。</p>
<p>5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進</p>	<p>A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 ⇒教職員、保護者、教職員、地域住民対象 肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域コーディネーターを中心として学習ボランティア、花壇ボランティア、農園ボランティアなど、地域やPTAとの連携をさらに推進していく。 ・地域協議会主催による親学講座や地域人材の活用を通して、地域、家庭、学校が協力した教育活動の推進を図る。 	<p>【達成状況】 児童 91.8 教職員 100 保護者 94.6 地域住民 91.7 ・全て目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・学習支援ボランティア、農園ボランティアなど地域やPTAとの連携をさらに推進していく。 ・地域コーディネーターを窓口とした学校支援ボランティアの活用や各種地域協議会主催の事業の活性化を推進する。</p>
<p>6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進</p>	<p>A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 ⇒教職員、保護者、地域住民対象 肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会の活動や各種たより、掲示物等を活用して、児童に安全な生活の仕方について啓発するとともに、その様子を各種便りやHP等により、家庭や地域へ積極的に発信する。 ・毎月の安全点検の実施や日頃の環境整備を通して、危険箇所や修繕箇所への迅速な対応に取り組むことで、児童が安全に生活できるよう努める。 ・熱中症警戒アラート発令時や雷雨などの気象災害への迅速な対応と、さくら連絡網を活用した保護者への確実な情報提供を行う。 	<p>(達成状況) 教職員 100 保護者 94.6 地域住民 92.3 ・全て目標値を上回った</p> <p>【次年度の方針】 ・学校の全教育活動を通して、安全指導を行うことで児童の安全に対する意識の高揚を図る。また、委員会活動や校内掲示を活用して、児童への啓発を行う。 ・各種便りやHP等により、安全に関する情報を家庭や地域へ積極的に発信する。 ・毎月の安全点検や日頃の環境整備を通して、危険箇所や修繕箇所への迅速な対応に取り組むことで、児童が安全に生活できるよう努める。 ・熱中症指数計を設置したり、気象庁からの情報をこまめに収集したりすることで、気象災害への迅速な対応を図る。また、気象災害の恐れがある場合はさくら連絡網を活用して保護者へ迅速に情報提供を行う。</p>
<p>6- (2) 学校のデジタル化推進</p>	<p>A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。 【数値指標】 ⇒教職員対象 肯定的回答 95%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT支援員との連携を図りながら研修や授業研究を実践し、デジタル機器の効果的な活用方法を研究する。 ・情報主任などを中心とし、最新の情報を教職員全員で共有し、職員のICT活用能力や技能向上を図る。 	<p>【達成状況】 教職員 100 ・目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・今後も校内研修等で教師のICTスキルを磨くとともに、ICT支援員との連携を図りながら、子どもたちのICT活用能力を更に高める。</p>

<p>小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等</p>	<p>B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 ⇒児童、教職員、保護者、地域住民対象 肯定的回答85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス単位の他にも代表委員会などで「さわやかあいさつ運動」を実施し、地域学校園あいさつ運動に取り組んでいく。 ・「ひらきたレンジャーがんばりカード」の活用や「さわやかあいさつ運動」などの取組を、各種たよりやHP等で周知することで、地域や家庭と協力してあいさつの励行を行う。 ・児童会を中心として、主体的な啓発活動を実践していく。 	<p>【達成状況】 児童 92.4 教職員 82.4 保護者 78.8 地域住民 84.6 ・児童が目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・クラス単位の他にも代表委員会などで「さわやかあいさつ運動」を実施し、学校園あいさつ運動にも取り組んでいく。</p> <p>B ・日頃から、あいさつの意味や効果について声を掛け、励まし指導することができるようにする。 ・各種たよりや学級懇談会、HP等であいさつに関する取組を家庭に知らせ、児童が時と場に応じたあいさつができるよう、「ひらきたレンジャーがんばりカード」を使って家庭と協力できるようにする。</p>
	<p>B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 ⇒児童、教職員、保護者、地域住民対象 肯定的回答90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ひらきたよい子の一日」を全職員で共通理解をして指導にあたり、月ごとに児童に振り返りをさせたりして学校のきまりの意識付けを図る。 ・平北レンジャーからの挑戦状や帰りの会などにおいて、生活目標の振り返りやよい行いを認め合う場を設定する。 ・見通しを立てて行動できるようするとともに、<u>5分前行動を心掛けるよう声掛け</u>をしていくことで、時間を守って生活しようとする意識を高める。 	<p>【達成状況】 児童 89.9 教職員 82.4 保護者 87.3 地域住民 100 ・地域住民が目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・「ひらきたよい子の一日」を全職員で共通理解をして指導にあたり、月ごとに児童に振り返りをさせたりして意識づけを図る。</p> <p>B ・帰りの会などで、生活目標の振り返りや友達のよい行いを認め合う場を設定する。 ・一斉下校の日には、下校時刻5分前になったら音楽を流し、時間を守ることへの意識や周りに対する配慮が身に付くようにするなど、様々な手立てを講じる。</p>
	<p>B3 いろいろな分野の本をたくさん読み、読書への関心が高まるよう努めている。 【数値指標】 ⇒児童、教職員、保護者対象 肯定的回答80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・図書室のイベントや多読賞・読破賞などを設け、読書に親しめる環境を作る。家読などの取組を継続しつつ、今年度もHPや各種たよりでさらに発信していく。 ・家庭での読書量が増えるよう、週に1回の図書持ち帰りを推奨し、家庭での読書活動を推進する。 ・学校図書館教育担当と学校図書館司書が連携し、読み聞かせの方法を工夫したり、授業内容に関連した図書の紹介を定期的に行ったりする。 	<p>【達成状況】 児童 79.1 教職員 100 保護者 55.1 ・教職員が目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・授業参観の際など、保護者が図書室に立ち寄れるような機会を作る。 ・家族のために子どもが本を選ぶなど、家庭でも読書に親しめる機会をもつようにする。</p> <p>B ・月1回程度宿題などでの家読を実施することで、家庭での読書活動を推進する。 ・学校図書館司書や委員会活動を中心に、読書に興味をもつような本の紹介をするなど、読書への関心を高めていく。</p>

【総合的な評価】

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【目指す児童の姿（評価項目：A1～9）】

- ・ A1「主体的に学習に取り組む態度」やA2「思いやりの心」についての肯定的回答は、全ての対象で目標数値を上回った。引き続き、基礎学力の向上を目指した取組を継続し「分かる授業」「楽しい授業」を実践していく。また、互いを認め、相手を大切にすることを意識を高めるため「認め、励ます」支援を継続するとともに、道徳の授業を中心とした各教育活動において、「思いやりの心」を育めるように取り組んでいく。
- ・ A3「目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組む態度」やA4「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」についての教職員の肯定的回答が目標値を下回った。目指すべき児童の姿を教職員が共通理解し、学校全体で取り組んでいくとともに、継続的に児童の行いを認め称賛することで、目標に向けて粘り強く取り組めるようにする。また、児童が健康・安全に気を付けて生活できるよう、放課後の過ごし方や交通安全について、発達段階に応じて各学級で指導するなど、安全教育を継続的に行うとともに保健教育や食育指導の充実を図る。
- ・ A6「児童は、英語を使ってコミュニケーションしているか」については、児童の肯定的回答が目標値を下回った。ALTと連携し、英語を話す機会を増やすとともに、英語に親しめるような活動の充実を図っていきたい。
- ・ A9「児童は、持続可能な社会に関心をもっている。」についての肯定的回答が児童、教職員ともに目標値を下回った。「持続可能な社会」を実現するとは、どのようなことであるか、各教科や特別活動等の機会を通して具体的に理解できるよう工夫する。また、活動を通して児童自身が持続可能な社会の作り手であることを自覚できるようにする。

【目指す学校の姿（評価項目 A10～20）】

- ・ A18「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」については、児童・教職員・保護者ともに肯定的回答が90%以上であり、学校目標を上回った。今後も学校の教育活動をHP、各種たより等で積極的に発信し、保護者や地域の理解と協力を得られるようにする。また、企業による出前授業や地域人材によるボランティア等の学校支援の充実を図るため、より一層連携を密にしていく。
- ・ A19「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」については、教職員・保護者・地域住民の肯定的回答がいずれも90%を超え、目標値を大きく上回った。今後も定期的に安全点検を行うとともに、保護者や地域住民からの情報を積極的に収集し、安心・安全な学校づくりを行っていく。
- ・ A11「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。」A12「教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。」については、保護者の肯定的回答が目標値を下回った。道徳や学級活動をはじめ、いじめゼロ強調月間等の機会を活用するなど、全教育活動を通して「いじめを許さない。」ということ継続して指導していく。また、いじめの早期発見・早期解決のためのアンケートの実施や家庭との連携をさらに充実していく。不登校に関しては、個に応じた指導や授業改善に取り組み「分かる・楽しい」授業を学校全体で目指していく。問題の未然防止とともに、発生時における組織的対応を心掛け、学校全体で問題解決に取り組めるようにする。
- ・ B1「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」については、教職員・保護者・地域住民の肯定的回答が目標値を下回った。あいさつ運動の際に児童にめあてをもたせて活動するなど、あいさつ運動が形骸化しないよう工夫する。日常的に教師から進んで挨拶することを実践し、児童が挨拶のよさや大切さを実感できるようにする。また、各種たより等で家庭や地域に啓発し、学校、家庭、地域の連携を図る。
- ・ B3「いろいろな分野の本をたくさん読み、読書への関心が高まるよう努めている。」については、保護者の肯定的回答が目標値を大きく下回った。読書に親しむための機会を工夫したり、図書室の環境整備を行ったりするなど、児童がより多く、幅広い分野の読書ができるようにする。また、家庭での読書量を増やすため、親子で読書に親しめるような企画を設けたり、各種たよりや授業参観等の際に保護者への啓発を行ったりする。

7 学校関係者評価

- ・ 学校経営方針に沿った教育活動がなされ、子どもたちの成長が感じられた。教職員の日々の努力によるものと感謝している。今後とも職員の皆様も健康にご留意なされ子どもたちの為によりしく願います。
- ・ 特に文化祭のイベント等において子どもたちの成長した様子が見えていた。
- ・ 挨拶が自然に出来ていた。また、感謝の気持ちをもっている子どもが多いと思う。
- ・ 学校は子どもたちのために頑張っていると思う。
- ・ 評価についてのデータ分析等して傾向を見るのも一つの方策だと思う。過去数年まで遡り児童、教職員、保護者、地域などの回答データを分析し、これらを基礎にして効果的な実践教育にも繋がるのではないかとと思う。
- ・ 肯定的回答率が高いが、肯定的回答をしなかった方の声も聞きながら今後の教育活動に活かしてほしい。
- ・ 英語を使ったコミュニケーションについては、日常生活の中で先生と児童が英語で会話をする機会を設けることも効果的なのではないか。また、持続可能な社会への関心については、保護者の協力が重要であることから「家庭でのSDGsの事例」を集め、まとめることも関心を高めることにつながるのではないかと。
- ・ あいさつについては、その時の感情によって影響を受けることがあり、「時と場に応じた」あいさつは難しいこともあるため、日常会話で交わす「あいさつ」程度でもよいかと思う。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・結果だけでなく、そこに至るまでの過程も見取りながら「認め・励ます」指導を継続して行うことで、児童の自己肯定感を高め、主体的に学校生活に取り組めるよう支援していく。
- ・次年度も「自分の考えをもち、ともに学び合う児童の育成」を研究課題として全教職員の共通理解のもとに学習指導を行うとともに、児童が主体的に学ぶことができるよう授業の改善を行っていく。
- ・安全教育・健康教育の充実を図ることで、「安全・安心」な学校づくり、「健やかな児童の育成」を目指す。各教科や訓練等の機会を通して、安全指導を行うことで児童の危機管理能力や安全・健康に対する意識の高揚を図るようにする。また、地域や家庭と連携し、児童の安全確保や健康の保持・増進を図るとともに、地域からも行政に働きかけを行うことで、施設の改善や安全対策の充実を図っていく。
- ・各教科や児童会活動等において、「持続可能な社会」について考える機会をもてるようにする。また、地域や関係団体との交流活動を通して「持続可能な社会」に関する知識を得たり、体験活動をしたりすることで、児童自身が「持続可能な社会」の作り手であることを意識できるようにしていく。
- ・道徳の授業を中心に学校教育全体を通して、思いやりの気持ちをもち、相手の立場を尊重する態度を醸成できるよう支援していく。また、いじめや不登校等の問題行動において、未然防止・早期発見・早期解決を目指して、学校全体で取り組めるような体制づくりを行い、組織的に問題を解決できるよう努めていく。
- ・「時と場に応じたあいさつ」については、引き続き学校の教育活動全体を通して指導するとともに、家庭や地域協議会をはじめとした地域の方々とも連携したあいさつ運動の展開を図る。
- ・関係機関や関係職員と連携し、英語に親しめる環境づくりや、学校図書館におけるより一層の本の充実を図ることで、幅広い分野に興味をもち、グローバル社会に適應できる児童の育成を図っていく。